

令和7年度 第2回 富塚中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年9月12日（金） 14時00分から15時20分まで
- 2 開催場所 富塚中学校 2階会議室
- 3 出席委員 金原 圭吾、安間 忠雄、久保田 智彦、池谷 忠彦、平出 謙介、田口 美貴子
- 4 欠席委員 池谷 定康、行森 瑞恵、山本 由佳、
- 5 学 校 松原 通恭（校長）、廣野 幸恵（教頭）、岩岡 正紘（教務主任）、伊澤 孝浩（生徒指導主事）、藤原 啓子（CS担当教職員）、岩邊 三幸（CSディレクター）
- 6 傍聴者 なし
- 7 会議録制作者 CSディレクター 岩邊 三幸
- 8 議長の選出
田口委員が、本日の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。
- 9 協議事項
(1) 学校運営について（グループ討議）
「授業を見学した上での感想、課題と展望」
(2) 部活動地域展開についての情報交換
(3) 学校教育活動への意見交換
- 10 会議記録
司会の教頭から、委員総数9人のうち6人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 学校運営について（グループ討議）

テーマ：「授業を見学した上での感想、課題と展望」

議長の指示により、授業を見学した上での感想、ならびに本校のグランドデザインと運営協議会の取組目標に照らし合わせて、課題と展望についてグループ討議を行った。各グループのファシリテーターが以下のように発表した。（◎：ファシリテーター）

【Aグループ：◎伊澤主事、金原委員、田口委員、久保田委員】

感想

- ・ 富塚中学校の生徒は明るく素直で、授業では全員が意見を出して話し合うなど、活動に対して積極的かつ主体的に取り組む姿勢が見られる。
- ・ 3年生が毎年後輩に良い姿を示しており、後輩もそれに見習い成長していける良い循環ができている。

課題・展望

- ・ ここ数年、縦割り活動が減少しており、地域活動への参加を通じて縦割り活動につなげ、生徒の主体性・積極性を育成したい。
- ・ 地域としては、「富塚でよかった」と思ってくれるようなイベントを企画し、体験の機会を提供す

ることで、地域への愛着を育む。

- ・ この地域の特性を生かし、生徒の企画したイベントに地域の方を招くなど、学校と地域が共に関われる新しい形の活動を考える。
- ・ 学校としては、地域が多くの貴重な体験を提供してくれていることを、子供たちに当たり前の事として受け止めないよう伝えていきたい。

【Bグループ：◎CS担当、岩岡主任、平出委員、安間委員、池谷委員】

感想

- ・ 小学校の過程から子供たちを見てきた立場から、中学生としての成長を感じた。
- ・ 授業に積極的に取り組み、クラスがまとまっていると感じる。

課題・展望

- ・ 学校での委員会、生徒会のような組織的リーダー経験だけでなく、地域でも子供たちがリーダーシップを発揮できる活動の場を意図的に設定・提供する、将来のファシリテーター的役割を担う人材を育てる。
- ・ 来年創立40周年を迎えるにあたり、大人だけではなく子供たち自身が自ら声をあげ、共に盛り上げていけると良い。
- ・ 生徒全員が積極的であるとは言えないため、学校としても行動を促し引き出す工夫やきっかけづくりが必要。改めて、地域と学校が連携して取り組んでいくこと重要であるとする。

(2) 部活動地域展開について

議長の指示により、校長から、別紙資料に基づき部活動地域展開について説明があり、その後、以下のとおり質疑応答があった。

質問（久保田委員）

- ・ 部活動が地域クラブへ移行した場合、中体連の大会や活動はどうなるのか。

応答（校長）

- ・ 平日中心の活動への移行に懸念はあるが、従来の部活動とは違う、新しい部活動の形として受け止め必要がある。また、部活動だけで物足りない生徒は地域クラブ「はまクル」での活動し、中体連の大会に参加する可能性もある。

質問（安間委員）

- ・ 私立中学校は地域クラブへ移行しない可能性もあるので、部活動をしっかりやりたい子は私立中学を選ぶようになるのではないかと。

応答（校長）

- ・ そのような選択をする可能性は十分にあり、部活動に代わるクラブ活動への移行や、地域クラブへの参加が進めば、学校教育や部活動の形が長い年月をかけて変化していくと予想される。

協議の結果、今後も継続的に情報交換を行い、学校と地域が協力し最適な形を考えていくことを確認した。

（３） 学校教育活動への意見交換

議長 の指示により、学校教育活動への意見交換の一環として、金原委員から提案があり、以下のような説明があった。また、その後、今回の事例について委員との間で以下のような意見交換が行われた。

【金原委員からの提案（説明要約）】

- ・ ある部活動において、父母会代表者に対して攻撃的な内容の連絡があり、顧問教師に対する不満や批判が寄せられた事例があった。
- ・ 普段部活動を支えてくださっている方々への敬意や、教員が不当な攻撃の対象とならないようにする視点から、教員を守る仕組みの一つの在り方として、「ペアレンツハラスメント防止ガイドライン（案）」を提示した。
（注：このガイドラインは、保護者と学校が協力して子供の成長を支えるため、教職員への過度な要求や威圧的言動を防ぐことを目的とする。）
- ・ まずこういった事実を運営協議会で共有した上で、保護者と学校が協力して建設的な協議を行うことが大切である。その上で、保護者も教職員も困った際に支え合う仕組みづくりを考えたい。

- ・ 今回の事例は、学校と保護者のコミュニケーション不足が原因の一つと考えられ、今後は顧問教師と保護者が話す機会を増やしてもよいのではないか。（平出委員）
- ・ 部活動が地域展開していく中、今年度は「はぐくみ会」（部活動後援会）の規約も改正され、保護者の役割がより大きくなることが予想される。顧問と保護者がこれまで以上にコミュニケーションを重ね、円滑にしていくことが望ましい。（田口委員）
- ・ 解決策というわけではないが、コミュニケーションそのものを学ぶ研修を提供している会社もあり、参考アイディアの一つとして、そうした研修を活用することもできる。（池谷委員）
- ・ 本校のいじめ防止基本方針と同様に、生徒だけでなく教師もトラブルや問題を感じた際に、この場で共有し、解決策を検討できる協力体制を考えたい。（安間委員）
- ・ 教職員に対するハラスメントはあってはならない。全ての部活動に父母会を設置し、保護者が学校との調整役を担うことで、トラブルが発生した際にはまず保護者同士で話し合い、その後に教員と共有するような形で進めるようにするのが望ましい。（久保田委員）

協議の結果、教職員が安心して教育活動に取り組めるよう、今後も継続的に情報交換を行い、学校と保護者が気持ちよく協力できる環境づくりを目指すことを確認した。

11 報告（教頭）

9月24日（水）にアクト大ホールにて文化発表会、10月16日（木）に体育大会を開催する予定であり、委員への参加を呼びかけた。

その他連絡事項

次回会議は11月20日（木）14：30～TS発表会を参観後、15：00より2階会議室で開催する。議題内容については、案内状にて改めて連絡する。